

平成20年度第1回経営協議会議事要録

- 1 日 時 平成20年6月13日(金) 13:30~15:15
- 2 場 所 ホテルアソシア豊橋 5階「オークルーム」
- 3 出席者 議長 学長
阿部委員, 磯村委員, 今泉委員, 丸山委員, 稲垣委員, 神野委員,
河野(正)委員, 菊池委員
- 4 列席者 生越監事, 河合監事

5 議 題

[審議事項]

- (1) 学長選考会議委員の選出について
- (2) 中期目標期間の業務実績報告書について
- (3) 平成19年度決算について

[報告事項]

- (1) 平成21年度概算要求について
- (2) 平成20年度監事監査計画について
- (3) 平成19年度資金運用実績について
- (4) その他
 - ア 外部資金受入れ状況及び科学研究費補助金採択状況について
 - イ 豊橋技術科学大学関係新聞記事について

6 議 事

議事に先立ち、平成19年度第4回議事要録(案)について、原案どおり確認された。

[審議事項]

- (1) 学長選考会議委員の選出について

学長から、資料「審議1」に基づき、学長選考会議委員の選出について説明のうち、委員の互選により、磯村委員、今泉委員、河野委員及び丸山委員を委員に選出してはどうかとの提案があり、審議の結果、磯村委員、今泉委員、丸山委員については就任の承諾が得られ、学長選考会議委員として選出された。

なお、欠席の河野委員については、後日、説明のうえ、承諾をいただくこととする旨説明があり、了承された。

- (2) 中期目標期間の業務実績報告書について

学長及び菊池副学長から、資料「審議2」に基づき、中期目標期間の業務実績報告書について説明があり、審議の結果、承認された。

なお、文言等の軽易な修正等があった場合の取扱いについては、学長に一任され、6月末までに国立大学法人評価委員会に提出することとされた。主な意見等は以下のとおり。

(○は法人の説明, ●は意見・質問, →は法人の回答を示す。)

○教育に関する目標

- ・全8課程中7課程でJABEEを取得し、学部教育の質が保証されている。
- ・卒業生が4年間で75%、平均では78%から79%が大学院に進学している。
- ・実践的・創造的思考力を有する技術者を養成するプログラムとして、実務訓練を継続的に実施している。
- ・社会人の履修の利便性を考えた「長期履修制度」とその支援体制を構築した。

○研究に関する目標

- ・COEが2件、さらにG-COEが1件採択された。
- ・認証評価の研究分野を平成18年度に受けた。
- ・学長の強いリーダーシップのもと、研究資金、研究スペース等の研究開発に係る資源等を有効に運用している。

○社会との連携、国際交流、高等専門学校との連携に関する目標

- ・海外のサテライトオフィスの設置等により大学情報の発信、外国人留学生の受入、研究者交流等を推進している。
- ・高等専門学校との連携を強化するため、「高専連携教育研究プロジェクト」制度を創設し公募型の教育・研究連携を推進している。

○現況調査表（教育）

- ・FD活動に関し、教育制度委員会の教育評価・改善部会において具体的活動内容に関する要綱を制定し、全学レベルでの組織的な対応を行っている。
- ・企業における長期実務訓練、地域社会の課題に関する公募型卒業研究などを実施している。
- ・質の向上度の判断については、自己評価をするもので、「学内教育活動」、「特徴ある教育課程の編成」、「優れた教育視点」と「外部評価」を採り入れたということで、十分によいという判断をしている。

○現況調査表（研究）

- ・21世紀COEプログラムからグローバルCOEプログラムが1件採択された。
- ・都市エリア産学官連携促進事業、一般型から発展型へと展開が行われた。
- ・21世紀COEプログラム（未来社会の生態恒常性工学）からの発展、展開がされている。

●内容はよいが、国立大学法人の評価が横並びされる中で、豊橋技科大の特色を強調した方がよいのではないか。

→ 強調する部分をゴシックにするなどの修正を重ねているところである。

●構成員の数の割に良くやっていることを表に出した方がよいのではないか。絶対量でやると大きな大学に負けてしまう。

→ 一から手直しは出来ないが、その点も踏まえて手を加えたい。

(3) 平成19年度決算について

学長及び会計課長から、資料「審議3」に基づき、平成19年度決算について説明があり、審議の結果、承認された。

また、生越監事から、監事監査の途中経過について報告があった。

なお、文言等の軽易な修正等があった場合の取扱いについては、学長に一任され、6月末までに文部科学大臣に提出することとされた。主な意見は次のとおり。

- 運営費交付金と外部資金獲得状況を合わせた表を作成し、国立大学法人の財政の窮状を人の目に見える形で示すことが必要である。
- 合わせた資料を作成し、次回の経営協議会に提出するとともに、機会あるごと各方面に訴えて行きたい。
- 豊橋技術科学大学は、もの作りを中心とした良い人材を育成していただきたい。
- 国立大学法人の財政の窮状については理解をするが、豊橋技術科学大学の役割を踏まえた教育・研究を進めていただきたい。

[報告事項]

(1) 平成21年度概算要求について

学長から、資料「報告1」に基づき、文部科学大臣に提出した平成21年度概算要求書について、報告があった。

(2) 平成20年度監事監査計画について

学長から、資料「報告2」に基づき、平成20年度本法人監事監査計画について、報告があった。

(3) 平成19年度資金運用実績について

会計課長から、資料「報告3」に基づき、平成19年度資金運用実績について報告があった。

(4) その他

ア 外部資金受入れ状況及び科学研究費補助金採択状況について

研究協力課長から、資料「報告4」に基づき、平成19年度の外部資金の受入状況及び平成20年度の科学研究費補助金の採択状況について報告があった。

イ 豊橋技術科学大学関係新聞記事について

学長から、資料「参考」に基づき、平成20年3月から5月末までの本学関係新聞記事について報告があった。

その他

「名古屋大学・豊橋技術科学大学連携協議会関連」

- 本学は産学官連携に強い大学であり、そのメリットを生かし、名古屋大学との交流をもっと強める必要があるのではないか。

「国際戦略関連」

- 東南アジアや中国との連携を強めることも必要である。
- 現在の外国の拠点は、今後も維持することが必要である。